

## 船舶燃料としてのメタノールの開発が本格化

### ◆スウェーデンでグリーンメタノールプラントが建設される

2021年5月、スウェーデンのグリーンメタノールを開発するスタートアップであるLiquid Windは、24年に最初の商業施設を開設すると発表した。

グリーンメタノールは、再生可能エネルギーを使って水を電気分解して得られた水素と火力発電所などから排出されるCO<sub>2</sub>から作られるメタノールである。日本でも三井化学などが開発を進めている。

Liquid Windは、スウェーデン北東部沿岸の火力発電所に近接してプラントを建設するためにオーストラリアのエンジニアリング会社Worleyの技術者を雇い入れ、メタノール生産モジュールの設計を開始したとも発表している。

### ◆欧州連合としてもグリーンメタノール生産の大型プロジェクトを開始している

21年4月、ドイツのWacker ChemieとLindeは、グリーンメタノール生産の計画が、欧州連合とドイツ環境省に認められたと発表した。プロジェクトはRhymeと名付けられた。総額1億2千万ドルの建設計画のうち、6千万ドルの資金援助を受ける。

25年までには20MWの水電気分解設備を用いて、年間1万5千トンのメタノールを生産する計画である。この施設では、従来のメタノール生産プラントから排出されるCO<sub>2</sub>よりも排出量を80%削減できる。

これとは別に、スウェーデンの化学会社であるPerstorpがフィンランドのエネルギー会社Fortumなどと共同でプロジェクトAIRを提案し、欧州委員会に認められたと4月に発表した。資金援助額については、21年内に確定する予定である。

バイオメタンと排ガスからのCO<sub>2</sub>、水の電気分解から得られる水素を用いて、年間20万トンのメタノールを生産する設備をスウェーデンに建設する。

25年までに完成する予定であり、年間50万トンのCO<sub>2</sub>排出量を削減できるとされている。

欧州では、グリーンメタノールを船舶燃料に活用するプロジェクトが始まっており、デンマークの海運大手も検討を開始している。

【松村晴雄】